

中国情報（畜産）

2008年1月18日号

◎2007年の中国の家禽肉市場情勢

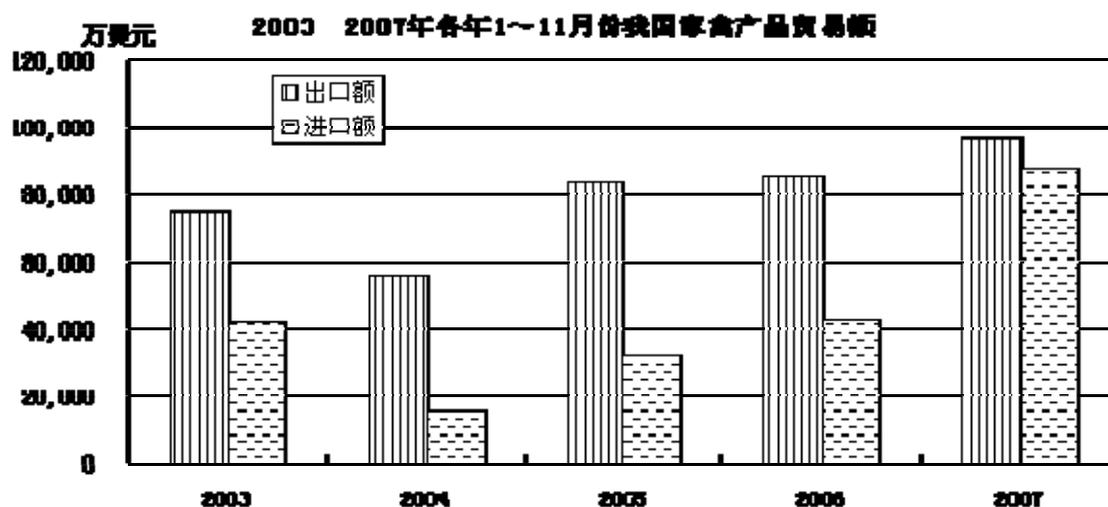
【中国農業部】

中国農業部は先ごろ、2007年における中国の家禽肉市場情勢の分析結果について発表した。その概要は以下のとおりである。

要約：2007年の中国のプロイラー価格は前年高、丸どりおよび生きた鶏の価格はともに史上最高を記録した。家禽産品は輸出入とも増加し、引き続き貿易黒字を維持した。国際市場における家禽肉価格は下落し、生産量は増加、貿易は活発となった。

1 家禽産品の輸出入状況

2007年1～11月の家禽産品輸入額は、前年比1.08倍増の8.76億ドルとなった。うち家禽肉およびモツが輸入総額に占める割合は98.01%、種禽が1.84%、家禽加工品が0.15%となった。



中国の家禽産品輸出額は、前年比12.78%増の9.62億ドルとなった。うち家禽加工品が占める割合は72.82%、家禽肉およびモツが23.92%、生きた家禽（種禽を除く）が3.26%であった。中国の家禽輸出は輸入を上回り、貿易黒字を維持した。

(1) 家禽肉およびモツは輸出入とも増加

2007年1～11月の家禽肉およびモツの輸入量は前年同期比42.14%増の73.64万トン、輸入額は1.12倍増の8.59億ドルとなった。主要輸入相手国は米国およびブラジルで、その合計は輸入総額の87.33%を占める。主要輸入省は広東省、上海市、江蘇省、遼寧省および江西チワン族自治区で、その輸入合計額は家禽肉およびモツ輸入総額の93.52%を占めている。

同じく、家禽肉およびもつの輸出額は52.56%増の2.3億ドル、輸出量は18.73%増の14.7万トンとなった。主要輸出相手国は香港特別区、マレーシアおよびマカオ特別行政区で、その輸出合計額は全体の88.34%を占めている。主要輸出省は広東省、山東省、遼寧省、河南省および吉林省で、その合計輸出額は全体の98.49%を占めている。

(2) 家禽加工品輸出は増加

2007年1～11月の家禽肉加工品の輸出量は前年同期比1.87%増の22.1万トン、輸出額は3.82%増の7.01億ドルとなった。主要輸出相手国は日本、韓国および香港特別行政区で、その輸入合計額は家禽加工品輸出総額の98.56%を占めている。主要輸出省は山東省、遼寧省、北京市、河北省および広東省で、その輸出合計額は全体の81.22%を占めている。

(3) 生きた家禽輸出額は増加、種禽輸入も増加

2007年1～11月の生きた家禽（種禽を除く）輸出量は、前年同期比11.05%減の1,499.04万羽、輸出額は14.49%増の3,134.98万ドルとなった。生きた家禽の輸出は、すべて香港およびマカオ特別行政区向けである。うち香港向け輸出額は9.86%増の2,266.02万ドルとなった。主要輸出省は広東省で、その輸出額は12.85%増の2,992.21万ドル、生きた家禽の総輸出量の95.45%を占めている。

同じく種禽の輸入量は25.41%増の116.31万羽、輸入額は14.25%増の1,616.07万ドルとなった。主要輸入相手国は米国およびフランス、主要輸入省は北京市、山東省および江蘇省であった。

2 国内の家禽肉消費状況

【家禽肉消費は増加】2007年の中国都市部における家禽肉の1人当たりの平均購入量は、前年比14.56%増の7.13kgと予測されている。うち都市部住民の1人当たりの平均鶏肉購入量は、17.24%増の5.448kgと見積もられている。この背景として、2007年は豚肉価格が

持続的に高騰し、その代替需要として家禽肉消費が増加したことがある。

【消費構造は地域ごとに差、南方の消費比率は高】2007年は広東省、広西チワン族自治区、海南省、雲南省、江蘇省および上海市など南方地区における鶏肉消費量が家禽肉に占める割合は、いずれも20%を超えた。この消費比率は、チベット自治区、内蒙古自治区および黒龍江省など北方および西部地区において比較的lowかった。

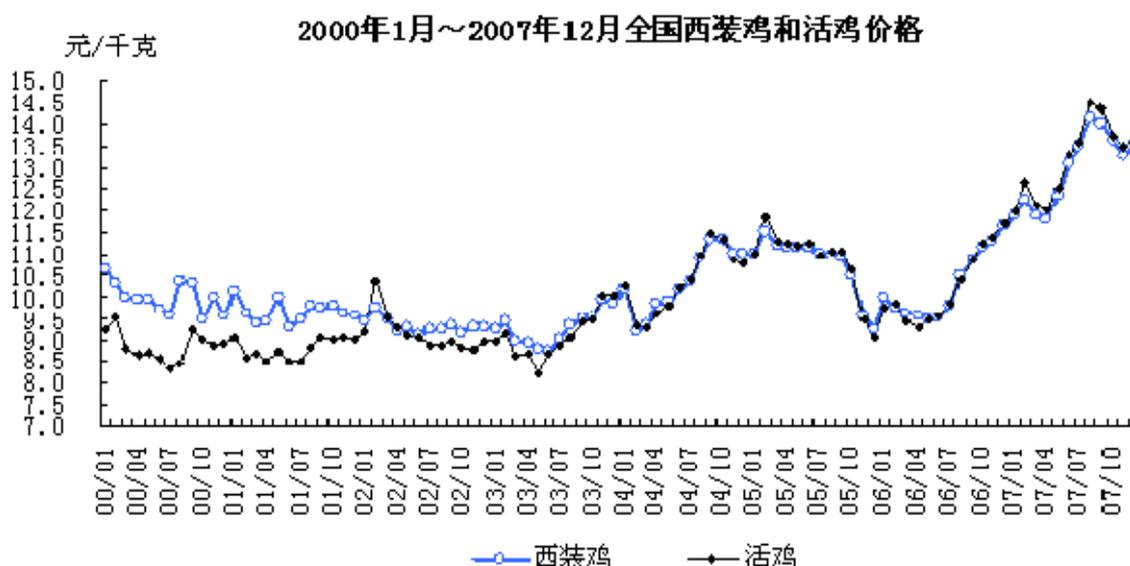
3 2007年の家禽肉価格の推移

2007年の中国の丸どりおよび生きた鶏の価格は高水準で推移し、前年に比べ大幅に増加して史上最高記録を更新した。

(1) 家禽肉産品価格の推移

【全体的に価格は大幅上昇】2007年の中国の丸どり平均価格は、前年比25.87%高の1kg当たり12.92円で、うち2省市の上昇幅は40%を超えた。生きた鶏価格の上昇幅は丸どりを上回り、前年比28.48%高の13.15元となった。うち5省市では、上昇幅が38%を超えた。

【月別には価格が連昇し続けた後に下落】2007年4月以降、丸どりおよび生きた鶏の価格は上昇を始め、8月には史上最高を記録し、丸どり価格は前年同月比34.67%高の1kg当たり14.14元となった。生きた鶏の価格は、39.25%高の14.51元となった。9～11月末は価格が下落し、12月になってやや上昇に転じた。



【丸どり生産地の価格上昇幅は消費地を上回る】2007年の主産地における丸どりの平均価格は、前年比26.37%高となった。内訳は、江蘇省では29.94%高、河北省では27.72%高、四川省では27.34%高、山東省では19.84%高などとなった。同じく、主要消費地における丸どりの平均価格は25.96%で、上海市が44.59%高、福建省が22.40%高、天津市が22.07%高、北京市が12.05%高などとなっている。

【生きた鶏の消費地価格は生産地を大幅に上回る】2007年の主産地における生きた鶏の平均価格は、前年比27.08%高の1kg当たり12.39元となった。主要消費地における生きた鶏の平均価格は、31.43%高の12.33元となった。

(2) 家禽肉製品の価格変動要因

ア 代替品の価格高騰の影響

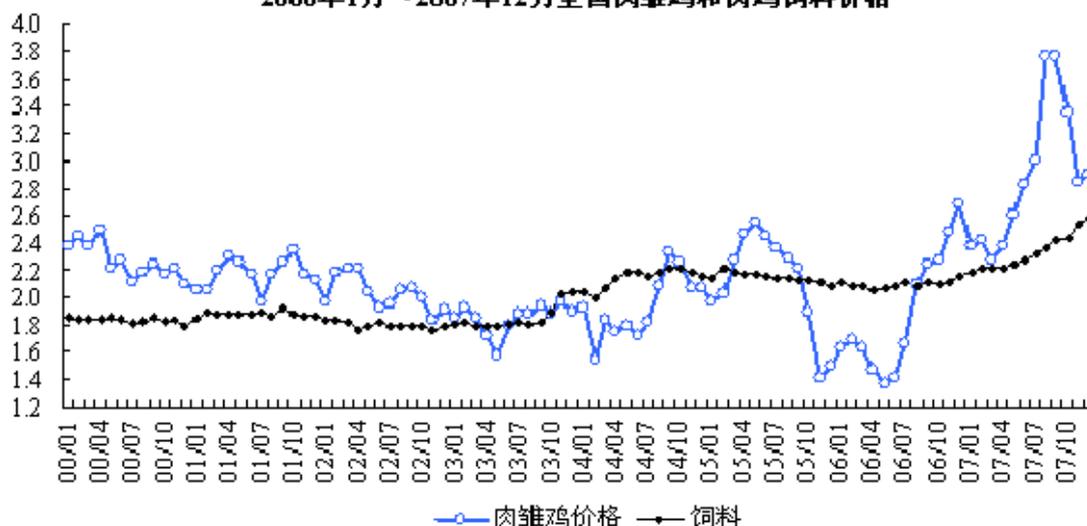
2007年は豚肉価格が大幅に上昇し、相関関係にある代替品価格も上昇した。家禽肉と豚肉は互いに代替効果が最も強く、代替弾性が最大であることから、豚肉価格の上昇が家禽肉に及ぼす影響も最大であり、これが家禽肉価格上昇の主要因となっている。

イ 飼料価格高騰の影響

各種飼料原料価格の持続的な高騰により、2007年の中国のブロイラー／配合飼料価格比は、前年に比べ11.07%上昇した。ブロイラー飼養コストに占める濃厚飼料コストは70%に及び、飼料価格の上昇は家禽肉産品価格上昇の主要な要因の一つとなる。

元/只(千克)

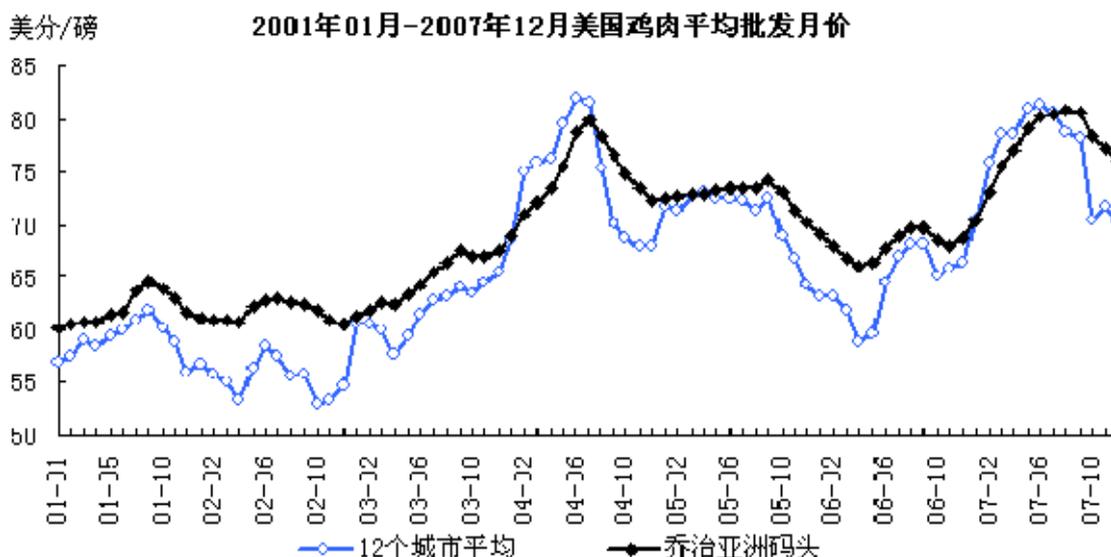
2000年1月～2007年12月全国肉雏鸡和肉鸡饲料价格



4 国際市場情勢

(1) 国際市場における家禽肉価格

【米国の家禽肉価格は継続的に上昇、第4四半期は下落】2007年に入り米国の家禽肉価格は上昇を続け、8月末までは終止高水準で推移したものの、9月始めに下落した。同年の米国21都市の鶏肉平均価格は、前年比18.68%高の1ポンド当たり76.37セントとなった。また、ジョージア州の埠頭における鶏肉平均価格は13.57%高の77.51セントとなった。米国の家禽肉価格下落は、生産量の増加と輸出の減少により在庫量が増加したことによる。



【ロシアの家禽肉価格は小幅上昇、安定的に推移】2007年1～11月のロシアの家禽肉平均価格は、前年比6.62%高の1kg当たり63.77ルーブルとなった。国際的な食品価格高騰の影響を受け、ロシアの家禽肉価格は小幅に上昇したものの、国内の生産量が前年増であったため、その価格は比較的安定して推移した。

【日本の鶏肉価格は下げ止まり上昇の気配】日本の鶏肉市場は、半年間続けての低迷後、下半期になって持続的に価格が上昇し始め、特に年末の需要期には卸売価格が大幅に上昇した。2007年11月の鶏モモの平均価格は、前年同月比13%高の1kg当たり670円、鶏ムネ肉は27%高の290円となった。輸入鶏肉は国際需要の増加や原油価格の高騰、円安など多様な要因により、価格は持続的に上昇した。

【EUの鶏肉価格は次第に不況を脱する】2007年上半期は鳥インフルエンザの影響を受け、EUの鶏肉価格は平均10%程度下落した。下半期に入り、イタリア、チェコなどの鶏肉消費が上向き始め、価格も反騰した。

(2) 生産および貿易分析

2007年の世界の家禽肉総生産量は、前年比3%増の8,620万トンとなった。北米を除き、いずれの地域とも生産量はほぼ増加と見積もられている。うち米国の家禽生産は飼料コスト上昇の影響を受け、総生産量に大きな変化はなく、前年比0.22%増の358.3億ポンドと予測されている。南米のブラジルおよびアルゼンチンは比較的高い増加ペースを維持した。タイは2006年の生産量が過剰で在庫量が比較大きいため、2007年の家禽肉の増加幅はそれほど大きくはない。日本は2007年初めの鳥インフルエンザ発生の影響を受け、生産量の増加は緩慢であった。その他の主要生産国であるオーストラリア、コロンビア、インド、インドネシア、イラン、ロシア、南アフリカおよびトルコの実産量は、ともに増加と着込まれている。南アフリカの実産量の増加と、エジプトの実産量が2006年の鳥インフルエンザの影響からやや回復したことにより、アフリカの実産量は増加するとみられる。また、EUの実産量は小幅ながら増加し、前年比1.32%増の1,078万トンとみられる。

2007年の世界の家禽肉貿易量は、前年比1~2%増の820万トンと見積もられている。最大輸出国はブラジルで、前年比11%増の300万トンとみられる。また、米国の輸出量は6.43%増の56.1億ポンドとみられ、2001年の55.55億ポンドを超えて最高となる可能性がある。タイの実産量も増加と予測されている。輸入が増加するのは主にアジアであるが、輸入大国である日本の家禽肉輸入量が、2006年の鳥インフルエンザの影響で在庫量が増加した影響からやや減少するとみられている。ロシアは2007年の家禽肉生産量の増加幅が比較的大きく、輸入量は減少すると予測されている。

5 国際市場の展望

【米国の家禽肉生産量の増加幅は大きくはなく、2008年上半期の価格低水準で推移】2007年は米国の家禽肉生産量が減少し、輸出需要が増加したことから価格は高水準で推移したが、第4四半期になって価格が下落し始め、2008年上半期には低水準で推移すると予測されている。

【日本の家禽肉産品需要は次第におう盛になり、価格は上昇】2007年下半期になって日本国内の鶏肉需要が増加したことに加え、国際市場における食肉価格高騰の影響を受け、輸入鶏肉コストが増加し、日本国内の鶏肉価格は引き続き上昇するものの、この価格上昇は2008年上半期まで持続することはないと予測されている。

【ロシアの家禽肉価格は依然として安定的に推移】2007年1～11月はロシアの家禽肉価格がわずかながら上昇したことに加え、冬季及びクリスマスが近づくに従い需要が増加したことから、ロシア国内の家禽生産量は次第に増加し、これに輸入を加えると、家禽肉価格の騰落幅は比較的小さいと予測され、2008年上半期の価格は安定しつつも低下傾向で推移するとみられている。

※ この記事は、中国農業部の了解を得て、独立行政法人農畜産業振興機構が翻訳提供しているものです。内容の一部または全部を転載等する場合は、それが当機構によるものである旨を必ず明らかにして下さい。